

病害虫発生予報 第2号

(向こう1か月間の発生予報)

I 総括表

| 作物名 | 病害虫名 | 地域 | 発生量 | 発生時期 | 摘要 |
|--------|----------------|----|-------|-------|----|
| 麦 | 赤かび病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | さび病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | うどんこ病 | 全域 | 並 | 並 | |
| 水稲 | ニカメイチュウ | 全域 | 並 | 並～やや早 | |
| | ツマゲヨコバイ(イネ黄萎病) | 全域 | 並 | 並 | |
| | イネドロオウムシ | 全域 | 並 | 並 | |
| | イネミズゾウムシ | 全域 | やや多 | やや早～早 | |
| りんご | 黒星病 | 全域 | やや多 | やや早 | |
| | うどんこ病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 斑点落葉病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 黒点病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 赤星病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 腐らん病 | 全域 | 並～やや多 | | |
| | リンゴハダニ | 全域 | 並 | 並 | |
| | ナミハダニ | 全域 | 並 | 並 | |
| | キンモンホソガ | 全域 | 並 | 並 | |
| | リンゴコカクモンハマキ | 全域 | 並 | 並 | |
| | ナシヒメシンクイ | 全域 | 並 | 並 | |
| アブラムシ類 | 全域 | 並 | 並～やや早 | | |
| なし | 黒斑病 | 全域 | 少 | 並 | |
| | 黒星病 | 全域 | やや少 | 並 | |
| | 赤星病 | 全域 | 並 | やや遅 | |
| | 胴枯病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | リンゴハダニ | 全域 | 並 | 並 | |
| | ナミハダニ | 全域 | 並 | 並 | |
| | リンゴコカクモンハマキ | 全域 | 並 | 並 | |

| | | | | | |
|----------------|------------------------|----|-------|---|--|
| なし | ナシヒメシンクイ | 全域 | 並 | 並 | |
| | モモシンクイガ | 全域 | 並 | 並 | |
| | クワコナカイガラムシ | 全域 | 並 | 早 | |
| | アブラムシ類 | 全域 | 並 | 並 | |
| もも | 黒星病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | せん孔細菌病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 灰星病 | 全域 | やや多 | 並 | |
| | モモハモグリガ | 全域 | 並 | 並 | |
| | アブラムシ類 | 全域 | 並 | 並 | |
| | カメムシ類 | 全域 | 並 | 並 | |
| | シンクイムシ類 | 全域 | 並 | 並 | |
| ぶどう | ハマキムシ類 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 灰色かび病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | べと病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 黒とう病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | チャノキイロアザミウマ | 全域 | 並 | 並 | |
| トマト | 葉かび病 | 全域 | 並 | 並 | |
| きゅうり | べと病 | 全域 | 並 | 並 | |
| 施設果菜類 | 灰色かび病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | うどんこ病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | アザミウマ・アブラムシ類 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| | オンシツコナジラミ | 全域 | 並 | 並 | |
| アブラナ科野菜 | 黒斑細菌病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | コナガ | 全域 | 並 | 並 | |
| レタス | 斑点細菌病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | 腐敗病・すそ枯病 ・灰色かび病・菌核病 | 全域 | 並～やや多 | 並 | |
| アスパラガス | 茎枯病 | 全域 | 並 | 並 | |
| | ジュウシホシクビナガハムシ | 全域 | 並 | 並 | |
| たまねぎ | べと病 | 全域 | 並 | 並 | |
| 野菜 花き 全般 | アブラムシ類 | 全域 | 並 | 並 | |
| | ハモグリバエ類 | 全域 | 並 | 並 | |
| | オオタバコガ | 全域 | 並 | 並 | |

※発生時期の空欄は、発生時期の関係ないものや発生中のものを示す。

II 向こう1か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう1か月の天候の見通し (気象庁 令和4年5月12日発表)

○関東甲信地方【5月14日～6月13日】

1週目の気温は北からの冷涼な空気の影響を受けやすいため、平年並か低い。向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込み。

○向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の出現確率(%)

| 区分 | 低い(少ない) | 平年並 | 高い(多い) |
|------|---------|-----|--------|
| 平均気温 | 40 | 30 | 30 |
| 降水量 | 30 | 30 | 40 |
| 日照時間 | 40 | 30 | 30 |

2 予報の根拠にかかる気象要因

(+)は発生を増加させる要因、(-)は発生を減少させる要因を示す。

III 麦

1 赤かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期(感染時期)：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①5月上旬現在、生育は平年に比べてやや遅い。
 - ②気象要因 向こう1か月の気象予報では、気温、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①最も感染しやすい開花期に防除を行う。
 - ②開花期に曇雨天が続くと多発する。多発が予想される場合には、第1回防除(開花期)から10～14日後に追加防除を行う。
 - ③今後の発生予察情報及び気象情報に注意する。

2 さび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生は確認されなかった。
 - ②気象要因 向こう1か月の気象予報では、気温、降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①発病初期を中心に防除を行う。
 - ②5月上旬にコムギ赤さび病の発病がみられたほ場では、実害が生じる程度まで発病が増加するリスクが高いため、開花期に防除を行う。

3 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①5月上旬の巡回調査では、一部のほ場で発生がみられているが、全般に発生は少ない。
 - ②気象要因 向こう1か月の気象予報では、気温、降水量は、ほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除上の留意点
- ①発病初期を中心に防除を行う。

IV 水稻

1 ニカメイチュウ(第1世代幼虫)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並～やや早 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①近年、一部の地域で発生が多いが、前年の発生は平年並であった。
 - ②須崎市及び小布施町のフェロモントラップでは、5月第2半旬まで誘殺は確認されていない。
 - ③上田市設置の予察灯への誘殺は、平年に比べやや早い5月第3半旬に初誘殺された。
- (3) 防除上の留意点
- ①5月下旬以降の移植であれば、苗箱施薬剤の処理効果は高い。前年に被害が発生した地域では、苗箱施薬剤にニカメイチュウにも効果のある薬剤を用いる。薬剤は「農作物病害虫・雑草防除基準」(以下「県防除基準」という。)を参考に選択する。
 - ②本田防除を行う場合、第1世代幼虫防除適期は越冬世代成虫の発蛾最盛期(北信地域の平年は6月第2半旬)の10～15日後である。

2 ツマグロヨコバイ第1回成虫(イネ黄萎病)

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①前年は、一部のほ場で発生が多かった。
 - ②4月の畦畔の吹き出し調査では、捕獲虫数及び捕獲地点の割合は平年並～やや少なかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①イネ黄萎病の発生の恐れのある地域では、「県防除基準」を参照し、ツマグロヨコバイに効果の高い苗箱施薬剤を選択する。

3 イネドロオイムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①前年の発生は、一部のほ場で発生が多かったが、全般には平年に比べてやや少なかった。

②気象要因 向こう1か月の気象予報では、気温、降水量は、ほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①発生期間が長引く場合は、苗箱施薬を実施していても本田防除を検討する。

4 イネミズゾウムシ

(1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**やや早～早**

(2) 予報の根拠

①前年の発生はやや多く、越冬量も平年に比べて多かったものと推察される。
②アメダスの気温データから算出した越冬地からの半数脱出推定時期は、全般に早い予測となっている（5月18日現在）。

(3) 防除上の留意点

①苗箱施薬をしても発生の多い場合は、本田防除を検討する。
②本田における要防除密度は、成苗で株当たり成虫1頭、中苗で0.7頭、稚苗で0.4頭である。
③湛水直播栽培では被害を受けやすいので、多発地域では発芽直後から発生に注意する。

V りんご

1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**やや多** 発生時期：**やや早**

(2) 予報の根拠

①子のう胞子の飛散のピークは4月下旬から5月上旬とみられる。
②気象要因（+） 向こう1か月の降水量は、平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①薬剤耐性黒星病菌の定着・拡散を防止するため、「県防除基準」を参照し、薬剤を選定する。
②5月下旬までの防除が重要である。防除間隔をあけすぎないように留意し、降雨状況等を勘案して定期的に防除する。

2 うどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられていない。

(3) 防除上の留意点

①ほ場内をよく点検し、被害花そうを早期に切除して、土中に埋める。
②発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、防除効果の高い農薬を散布する。

3 斑点落葉病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①伝染源量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①防除間隔をあけすぎないように留意し、定期的に防除する。

4 黒点病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①伝染源量は平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①防除間隔をあけすぎないように留意し、防除する。

5 赤星病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①伝染源量は平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①防除間隔をあけすぎないように留意し、防除する。

6 腐らん病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並～やや多**

(2) 予報の根拠

①近年、発生量はやや多めに経過している。

(3) 防除上の留意点

①園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。
②病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。
③枝幹部にも薬剤が十分かかるように散布する。

7 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①越冬卵量は、全般に平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。
②防除は、散布むらがないようにする。

8 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①越冬成虫量は、全般に平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①発生が多い場合は、殺ダニ剤を散布する。
②防除は、散布むらが生じないようにする。

9 キンモンホソガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①越冬世代成虫の発生量は、全般に平年並とみられる。
②一部のほ場では、フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺が見られる。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。(蚕毒に注意。)

10 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬幼虫の発生量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②発生時期を把握し、防除が遅れないように留意する。

③交信攪乱剤を利用する場合は、遅れないように設置する。

11 ナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬幼虫量は、平年並とみられる。

②巡回調査では、芯折れ症状はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①芯折れの被害枝は、切除して焼却する。

②6月に「芯折れ症状」が多い場合は、第二世代幼虫の防除を徹底する。

③産卵のピーク時期は、防除間隔を2週間以上あけないようにする。

12 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：並～やや早

(2) 予報の根拠

①4月下旬及び5月上旬の巡回調査では、寄生葉の発生は少なかった。

(3) 防除上の留意点

①葉が捲いてからでは十分な防除効果が得られないので、発生初期の薬剤散布を心がける。剤によっては蚕毒が強いものがあるので注意する。

VI なし

1 黒斑病

(1) 予報の内容 発生量：少 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①4月上旬の巡回調査及び県予察ほの発生はみられなかった。

②伝染源となる胞子の形成時期は前年に比べやや早く、飛散時期・飛散量は平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①「二十世紀」、「南水」では袋掛けまでの防除を徹底するとともに、防除間隔をあけすぎないようにする。袋掛けは生育に合わせて行い、作業が遅れないよう留意する。

②発生園では、下草刈り、防風ネットを一時的に除去する等により園地環境を改善する。

③発病果は見つけ次第、除去する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：やや少 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

②南信農業試験場の子のう胞子の飛散調査は、4月第3半旬より確認されている。

(3) 防除上の留意点

①定期的に薬剤散布を行い防除する。特に、常発園では受粉樹の防除も行う。

②散布むらが生じないようにする。

③罹病果、罹病葉は見つけ次第切除し、焼却または埋却する。

④前年発生が多かった園地、開花期前後の防除間隔をあけすぎた園地では、発生状況に注意し、今後の果実感染を予防する対策を講ずる。

3 赤星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：やや遅

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①発生が多い場合は、伝染源となるビャクシン類が近隣に存在する場合がありますので、可能であれば伐採する。

4 胴枯病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①枯死枝はせん除する。主幹部の病斑は除去し、塗布剤を処理する。

②凍霜害を受けた園地では、降雨により感染が拡大する場合がありますので注意する。

③胴枯病菌は、「幸水」に心腐れ症状を起こす場合がある。

5 リンゴハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬卵量は、冬芽の調査では平年並の寄生であった。

(3) 防除上の留意点

①発生状況を確認して、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。

②散布むらが生じないようにする。

6 ナミハダニ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬成虫量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①発生状況を確認して、密度が増加する前に殺ダニ剤を散布する。

②散布むらが生じないようにする。

7 リンゴコカクモンハマキ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬幼虫量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①発生時期を把握し、遅れないように防除する。

②交信かく乱剤は、遅れないように設置する。

8 ナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①南信農業試験場のフェロモントラップでは、平年並に推移している。

(3) 防除上の留意点

①6月に「心折れ症状」が多い場合は、第2世代幼虫の防除を徹底する。

②産卵ピーク時期は、防除間隔は2週間以上あけないようにする。

9 モモシンクイガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①越冬幼虫量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

①産卵ピーク時期には、防除間隔を2週間以上あけないようにする。

10 クワコナカイガラムシ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：早

(2) 予報の根拠

①有効積算温度による越冬卵のふ化完了予測日は、平年と比べ早い。

(3) 防除上の留意点

①多発地域では、ふ化初期から有機リン剤など効果の高い殺虫剤を2週間間隔で2～3回散布する。

②アブロード水和剤は、時期を逸しないように散布する。

11 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、一部のほ場でワタアブラムシの発生がみられた。

(3) 防除上の留意点

①主な発生種であるワタアブラムシは、有機リン剤、合成ピレスロイド剤などに対して感受性が低い場合があるので注意する。

②葉が捲いてからでは十分な防除効果が得られないので、発生初期に防除する。

③葉が捲いている場合は、ネオニコチノイド系薬剤を散布する。

VII もも（ネクタリンを除く）

1 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①近年、発生が少ない傾向にある。

(3) 防除上の留意点

①5月中下旬～6月に登録のある殺菌剤を散布する。剤によっては、高温時に散布すると葉害が発生する恐れがあるので注意する。

2 せん孔細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①気象要因 向こう1か月の降水量は、平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①第一次伝染源である春型枝病斑は、見つけ次第必ずせん除し、埋却処分等を行う。

②「県防除基準」を参照し、抗生物質剤等を選択して防除する（使用時期に注意）。これらの剤は薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、使用回数等に注意する。

③抗生物質剤の中には、満開約30～14日前の有核ぶどうにかかると、種なし果を生じさせる場合があるので注意する。

3 灰星病

(1) 予報の内容 発生量：やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、東信及び北信地域の一部ほ場で花腐れがみられた。

(3) 防除上の留意点

①いずれの品種も収穫20日前頃からの防除が重要となるので、「県防除基準」を参照し、防除する。降雨の状況に応じて散布間隔を短縮する。

②花腐れや被害果実は、見つけ次第除去する。

4 モモハモグリガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①フェロモントラップによる越冬世代成虫の誘殺時期は、平年並である。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②食入幼虫が多い場合は、有機リン剤を選択して散布する。

5 アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、発生がみられなかった。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。

6 カメムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①フェロモントラップによる誘殺数は、平年と比べ少ない。
②気象要因 向こう1か月の気温は、平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、発生園では早めに防除する。

7 シンクイムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①フェロモントラップの誘殺数は、平年並である。

(3) 防除上の留意点

- ①芯折れの被害枝を見つけたら、切除して焼却する。
②「県防除基準」を参照し、防除する。

8 ハマキムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①越冬幼虫量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

- ①発生が多いところでは、「県防除基準」を参照し、早期に防除する。

VIII ぶどう

1 灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①越冬伝染源量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、開花期前後に防除する。
②薬剤耐性菌の出現防止のため、同一系統剤は連用しない。
③花かす落としを励行し、被害花房や果房は見つけ次第、除去する。

2 ベと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①前年の発生は、やや多かった。
②気象要因 向こう1か月の降水量は、平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、間隔をあけすぎないように定期的に防除する。

②早期に袋かけを行う。

③薬剤耐性菌の出現防止のため、同一系統剤は連用しない。

3 黒とう病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①前年の発生は、平年並とみられる。
②気象要因(+) 向こう1か月の降水量は、平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、展開葉2～3枚時の防除を徹底する。
②防除間隔をあけすぎないようにするとともに、早期に袋かけを行う。

4 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①越冬虫量は、平年並とみられる。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、開花期前後に防除する。
②薬剤の種類や散布時期によって、果粉溶脱や果粒にさびを生じるものがあるので注意する。

IX 野菜

1 施設果菜類（トマト）の葉かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
②多湿条件で発生しやすいので、過度の密植は避け、適正なかん水や換気等によって環境条件の改善に努める。

2 施設果菜類（きゅうり）のべと病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ①「県防除基準」を参照し、防除する。
②降雨や灌水時の地表面からの水のはね上がりによって感染することが多いので、ポリマルチ、敷わら等によって水滴のはね上りを防ぐ。

③強度の摘心、着果過多、あるいは肥料切れなどによる草勢の衰えは、発病を助長するので適正な栽培管理を行う。

3 施設果菜類（きゅうり、トマト等）の灰色かび病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①昼夜の温度差が大きくなり、結露量が増えると発生しやすくなる。

②施設内の換気を十分行い、除湿を図る。除湿器の利用は、ハウス内の湿度上昇抑制に有効である。

③発病葉、発病果は見つけ次第除去する。

④「県防除基準」を参照し、防除する。

4 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のうどんこ病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、7～10日間隔で防除する。多発してからの薬剤散布は効果が劣る。

②同一系統の薬剤を連用しないようローテーション使用に留意する。

③下葉で発病の著しいものは、摘葉する。

5 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のアザミウマ類・アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、中南信地域のきゅうりの一部施設栽培ほ場でアザミウマ類の寄生がみられた。

②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、定植時は粒剤処理、生育期間中は薬剤散布により防除する。

②日中の気温上昇で側窓を開放する場合は、施設内への飛び込みに注意する。

6 施設果菜類（きゅうり、トマト等）のオンシツコナジラミ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、寄生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①苗からの持ち込みに留意する。

②「県防除基準」を参照し、定植時は粒剤処理、生育期間中は薬剤散布により防除する。

③日中の気温上昇で側窓を開放する場合は、飛び込みに注意する。

④早期発見に努め、防除が遅れないように留意する。

7 アブラナ科野菜の黒斑細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①アブラナ科野菜の連作は避ける。

②耐病性の品種間差が大きいため、品種選定に留意する。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

④収穫残さは二次伝染源となるので、早期に除去し適正に処理する。

8 アブラナ科野菜のコナガ

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、寄生はみられなかったが、フェロモントラップ調査では南信の一部で誘殺数が増加している。

②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②同一系統の薬剤を連用しないようローテーション使用に留意する。

9 レタスの斑点細菌病

(1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

①5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。

②気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除する。

②ナモグリバエの吸汁産卵痕から感染しやすいので、ナモグリバエの発生に注意する。

③「県防除基準」を参照し、防除する。

10 腐敗病・すそ枯病・灰色かび病・菌核病

(1) 予報の内容 発生量：平年並～やや多 発生時期：平年並

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、中信地域の一部のほ場で、腐敗病の発生が外葉にみられた。
また、東信地域の一部の結球始期のほ場でも、腐敗病が外葉にみられた。

(3) 防除上の留意点

- ① 凍霜害の被害があったほ場では、低温性の腐敗病、灰色かび病、菌核病が発生するおそれがある。また、結球が進んだものほど低温等の影響を受けやすく、今後の天候によっては被害部から腐敗性病害が発生することがあるので注意する。
② 「県防除基準」を参照し、防除する。

11 アスパラガス茎枯病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、発生はみられなかった。
② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 春収穫後の残茎に発生がある場合は、伝染源になるので早期に処分する。
② 降雨によるはね上がりにより感染が拡大するので、土寄せ、敷わら等を行う。
③ 散布間隔を短縮して立茎時に重点防除すると、茎枯病の予防に効果が高い。
④ 「県防除基準」を参照し、防除する。
⑤ 同一系統の薬剤を連用しないようローテーション使用に留意する。

12 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、寄生はみられなかった。
② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 山際のほ場や前年に多発したほ場で発生が多い。
② 「県防除基準」を参照し、防除する。

13 タマネギべと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、中信及び北信地域の一部のほ場で発生がみられた。前年に比べ発生量は少ない。
② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。
② 発病茎葉は二次伝染源となるので、早期に除去する。

14 アブラムシ類（野菜・花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、北信地域の一部のアスパラガスほ場で発生がみられた。
② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① シルバーストライプマルチの利用により、有翅虫の飛来忌避が期待できる。
② 播種時または定植時に粒剤を施用し、初期の発生を抑える。

15 ハモグリバエ類（野菜・花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、寄生はみられなかった。
② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 育苗期から防除を徹底し、無寄生苗を定植する。
② 定植時に粒剤を処理する。
③ 生育期は、成虫の発生状況や吸汁産卵痕をよく観察し、防除が遅れないように注意する。

16 オオタバコガ（野菜・花き全般）

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

- ① 5月上旬の巡回調査では、寄生はみられなかった。
② 気象要因 向こう1か月の気温、降水量、日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上の留意点

- ① 「県防除基準」を参照し、防除する。
② 同一系統の薬剤を連用しないようローテーション使用に留意する。
③ 結球野菜では、結球始期を重点的に1週間間隔で2～3回防除を行う。